

京田辺市における外部人材を活用した不登校の取組状況

1 外部人材の活用

(1) スクールカウンセラー

心の専門家として児童生徒の臨床心理に関して、専門的な知識、経験を生かし、サポートをしています。京田辺市の現状は、京都府及び京田辺市より、月に1～2回各小中学校に派遣しています。

(2) まなび・生活アドバイザー

社会福祉の専門的な知識・技術を活用し、課題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭・学校・地域の関係機関をつなぎ、問題の解決に向けて支援をしています。京都府により、拠点校3校に週2日程度配置しています。他の学校には、拠点校より年間4回派遣されています。

(3) 心の居場所サポーター

学校に登校できるが、教室に入りにくい児童生徒に対し、相談室等で相談・学習支援を行っています。

京都府により小中各1校に週2～3日配置されています。令和3年度は、新型コロナウイルスに対する児童生徒の支援のため、配置校以外に週1日程度配置されています。

(4) キララサポーター

中学校へ不登校・学習・教育相談・体験活動等に対して生徒への支援を行っています。京田辺市により中学校2校に週2～3日配置されています。

2 京田辺市適応指導教室（ポットラック）の実施状況

(1) 実施状況

- ・ 令和元年度の年間開室日数191日、通級延べ人数1,176人
- ・ 令和2年度の年間開室日数182日、通級延べ人数814人

(6月1日～3月24日(4・5月臨時休業))

(2) 通級生徒への適切な対応を図るため、臨床心理士等を招き指導員へのスーパーバイズを実施しました。

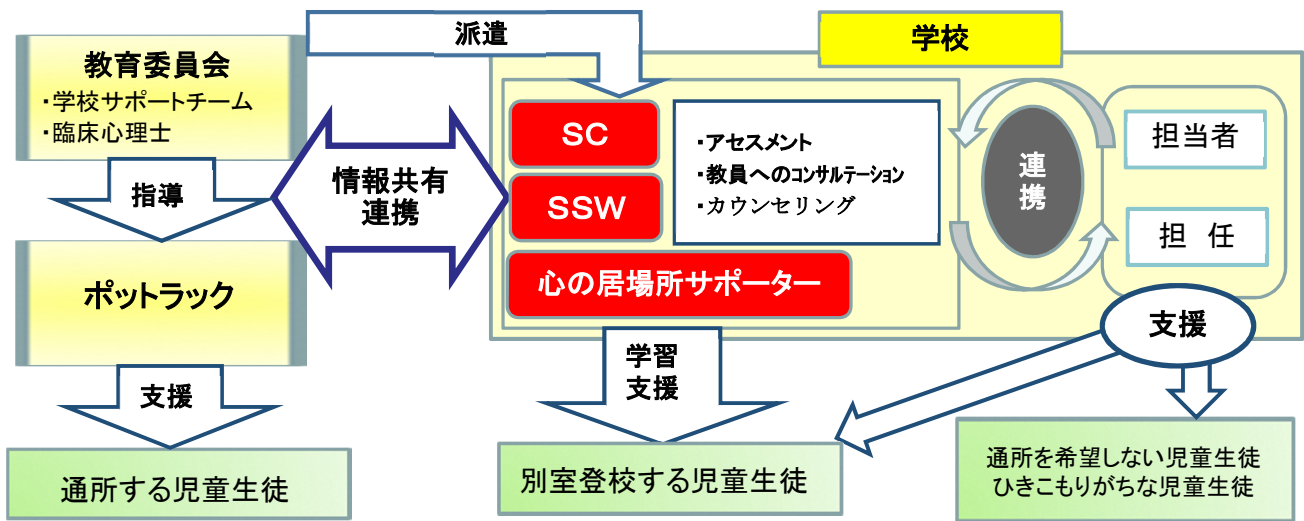
3 京田辺市教育相談等ネットワーク会議

各学校のスクールカウンセラーや教育相談担当者等で構成する京田辺市教育相談等ネットワーク会議において、外部人材の活用方法、本市不登校児童生徒の状況、適応指導教室「ポットラック」の運用状況などについて情報共有するとともに、市配置臨床心理士及び担当指導主事が指導助言を行っています。

4 学校サポートチームによる支援

臨床心理士、担当指導主事による学校支援チームが、不登校・虐待等を有すると考える児童生徒の課題解決に向けて、学校（幼稚園）へ指導助言を行っています。

京田辺市のイメージ



スクールカウンセラー（SC）、まなび・生活アドバイザー（SSW）、心の居場所サポーターを配置

5 フリースクールとの連携

児童生徒の状況によって連携を進めていきます。